



## 平成25年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月1日

上場会社名 シミックホールディングス株式会社  
コード番号 2309 URL <http://www.cmic-holdings.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長CEO (氏名) 中村 和男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員CFO (氏名) 望月 渉

TEL 03-5745-7070

四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年9月期第3四半期の連結業績(平成24年10月1日～平成25年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期第3四半期	37,835	1.6	3,213	8.0	3,045	1.8	1,403	△26.9
24年9月期第3四半期	37,249	18.5	2,973	△10.8	2,993	△8.8	1,920	17.0

(注) 包括利益 25年9月期第3四半期 1,635百万円 (△15.1%) 24年9月期第3四半期 1,926百万円 (16.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年9月期第3四半期	77.89	—
24年9月期第3四半期	105.56	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年9月期第3四半期	43,817	19,444	44.3
24年9月期	42,265	18,703	44.0

(参考) 自己資本 25年9月期第3四半期 19,393百万円 24年9月期 18,588百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年9月期	—	15.50	—	19.50	35.00
25年9月期	—	17.50	—		
25年9月期(予想)				17.50	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年9月期の連結業績予想(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,000	1.4	3,800	△3.0	3,600	△6.1	1,600	△28.6	88.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 有  
④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、四半期決算短信 添付資料4ページ「2 サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年9月期3Q	18,221,860 株	24年9月期	18,221,860 株
② 期末自己株式数	25年9月期3Q	223,900 株	24年9月期	32,820 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年9月期3Q	18,019,729 株	24年9月期3Q	18,189,160 株

(注)自己株式数については、株式給付信託(J-ESOP)が所有する当社株式(25年9月期3Q:190,000株)を含めて記載しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。  
業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信 添付資料4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(5) セグメント情報等 .....	9
(6) 重要な後発事象 .....	10
4. 補足情報 .....	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

医薬品業界におきましては、薬価改定や後発医薬品の普及促進等を通じた医療費抑制策の推進、主力製品の特許切れ、世界的な新薬の承認審査の厳格化等の影響により厳しい事業環境が続いております。一方、当社グループが属する医薬品の開発、製造、営業を支援する業界におきましては、各業務の迅速化及び効率化を目指したアウトソーシングニーズの拡大と多様化とともに、企業合併や異業種からの新規参入等、業界再編も進みつつあります。

このような環境下において、当社グループは、製薬企業の付加価値向上に貢献する当社独自の事業モデルであるPVC (Pharmaceutical Value Creator) を展開し、CRO (医薬品開発支援) 事業、CMO (医薬品製造支援) 事業、CSO (医薬品営業支援) 事業、ヘルスケア事業、IPD (知的財産開発) 事業において、製薬企業の開発、製造、営業・マーケティングのバリューチェーンを広範に支援しております。また、今後はこれらの経験を活かしてさらに広く健康を支える事業の確立を目指し、ヘルスケア分野のリーディングカンパニーとなるべく、ビジネスを展開してまいります。

当第3四半期連結累計期間においては、平成24年11月13日発表の中期計画に基づき、各事業において既存事業の強化及び新規施策に取り組んでおります。

平成25年5月には、生体試料中の薬物濃度を測定する試験の高感度分析に強みをもつ株式会社JCLバイオアッセイと資本業務提携契約を締結し、分析化学サービス、安全性薬理試験および薬効薬理試験等の事業分野の強化を図っております。

当第3四半期連結累計期間の業績は、CRO事業が堅調に推移したこと等より、売上高は37,835百万円（前年同期比1.6%増）、営業利益は3,213百万円（同8.0%増）となりました。経常利益につきましては、契約精算金等の一時的な費用を営業外費用に計上したこと等により3,045百万円（同1.8%増）となりました。また、投資有価証券評価損を特別損失に計上したこと、平成24年3月に実施した完全子会社同士の合併に伴う税金費用の減少という前年同期の一時的要因がなくなったこと等により、四半期純利益は1,403百万円（同26.9%減）となりました。

セグメント別の業績の状況は以下のとおりです。

なお、平成25年4月1日付の組織変更に伴い、医薬・医療に特化した一般派遣業務等を行う株式会社シミックBSは、その所属する報告セグメントをヘルスケア事業からCSO事業に変更しております。セグメント別の業績の前年同期比増減額および率につきましては、当該変更後の区分に基づいて比較しております。

## 〔CRO事業〕

売上高	15,561百万円	（前年同期比	1,863百万円増、	13.6%増）
営業利益	3,084百万円	（同	514百万円増、	20.0%増）

当事業においては、製薬企業の医薬品開発支援に係る業務を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、中期計画における重点施策の一つであるPMS（製造販売後調査）事業の成長促進を図るため、平成25年4月に株式会社日本アルトマークよりCRO事業を譲り受け、シミックPMS株式会社の営業を開始いたしました。また、マレーシアに現地法人を設立し、医薬品および医療機器市場の成長が中期的に見込まれるアジア地域におけるCRO事業の強化に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間の売上高につきましては、モニタリング業務において新規受注及び既存案件が順調に進捗したこと、データマネジメント業務においてシミックPMS株式会社の売上が加わったこと等により、前年同期を上回りました。また、営業利益につきましても、モニタリング業務を中心に全般的に業務が順調に進捗したこと、非臨床業務における採算が改善したこと等により、営業利益は前年同期を上回りました。

## 〔CMO事業〕

売上高	11,769百万円	（前年同期比	1,215百万円減、	9.4%減）
営業利益	1,161百万円	（同	267百万円減、	18.7%減）

当事業においては、製薬企業の医療用医薬品及び一般用医薬品などの製造支援及び分析化学サービスに係る業務を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、シミックCMO株式会社において、新規案件の受託生産があったものの、既存案件の一部製品の受託生産量が減少したことにより、売上高が前年同期を下回りました。また、製造費用の圧縮等によるコスト削減に努めましたが、営業利益も前年同期を下回りました。

## 〔CSO事業〕

売上高	3,906百万円（前年同期比	861百万円減、	18.1%減）
営業利益	332百万円（同	199百万円増、	149.2%増）

当事業においては、主に製薬企業の営業・マーケティング支援及び医薬・医療に特化した一般派遣業務等に係る業務を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、MR（医薬情報担当者）派遣業務においてヨーロッパ最大級のCSO「Ashfield Group」の日本法人であるAshfield株式会社と提携し、日本における新たなサービスモデルの提供を開始しておりますが、MR派遣市場の受注環境の回復の遅れや競争激化により、新規受注案件の獲得が計画を下回る状況で推移しています。

当第3四半期連結累計期間においては、株式会社シミックBSの一般派遣業務等において新規案件の獲得や既存案件における業務量が増加したこと等により、各業務の売上高は前年同期比で増加しておりますが、前年同期末まで連結対象会社であったエムディエス株式会社（現エムディエス・シーエムジー株式会社）が持分法適用会社となったことにより、CSO事業全体の売上高は前年同期を下回っております。一方、営業利益につきましては、MR派遣業務において採算が改善したこと、一般派遣業務等が好調に進捗したこと等により、前年同期を上回りました。

## 〔ヘルスケア事業〕

売上高	6,920百万円（前年同期比	730百万円増、	11.8%増）
営業利益	514百万円（同	78百万円増、	18.1%増）

当事業においては、SMO（治験施設支援）業務、ヘルスケア情報サービスなど、主に医療機関や患者、一般消費者の医療や健康維持・増進のための支援業務を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、主力のSMO業務を行うサイトサポート・インスティテュート株式会社において、既存プロジェクトの進捗等により売上高及び営業利益は前年同期を上回って推移しております。しかしながら、上半期に比べ難易度が高い試験が増加していること等から原価率が上昇しており、期初計画の利益確保が厳しい状況になっております。

## 〔IPD事業〕

売上高	227百万円（前年同期比	172百万円増、	315.9%増）
営業損失	591百万円（前年同期	営業損失	432百万円）

当事業においては、診断薬や希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）などの開発及び販売に係る業務を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、当社が腎疾患の診断を目的として開発した体外診断用医薬品「ヒトL型脂肪酸結合蛋白キット（販売名：レナプロ®L-FABPテスト）」について、平成24年12月からデンマークでの販売を開始いたしました。

希少疾病用医薬品について、尿素サイクル異常症用治療薬「ブフェニール®（一般名：フェニル酪酸ナトリウム）」は、平成24年9月に製造販売承認を取得し、希少疾病用医薬品を中心とした医薬品の製造販売を行う連結子会社 株式会社オーファンパシフィックに製造販売承認を承継し、平成25年1月より販売を開始いたしました。急性ポルフィリン症治療薬「ノーモサング®（一般名：ヘミン）」は、平成25年3月に製造販売承認を取得し、販売に向けた準備を進めております。遺伝性血管性浮腫治療薬「エカランタイド」は開発の段階にあります。

当事業は希少疾病用医薬品及び診断薬にかかる研究開発費の計上並びに株式会社オーファンパシフィックにおける販売立ち上げにかかる費用等の計上により、営業損失が発生しております。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末比で1,551百万円増加し、43,817百万円となりました。これは、主に有形固定資産及び仕掛品の増加によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末比で811百万円増加し、24,372百万円となりました。これは、主に借入金の減少及び退職給付引当金の増加並びに流動負債のその他に含まれる未払費用の増加によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末比で740百万円増加し、19,444百万円となりました。これは、主に利益剰余金の増加によるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年9月期の業績予想につきましては、平成24年9月期決算短信（平成24年11月7日付）にて公表いたしました予想を、現時点での入手可能な数値にあわせて修正しております。平成25年9月期第3四半期連結累計期間につきましては、CRO事業においては堅調に推移し売上高・利益ともに当初計画を上回る進捗となっておりますが、下半期に入り、CMO事業において既存案件の一部製品の受託生産量が減少していることに加え、期初に見込んでいた新規受託案件が顧客都合により生産開始遅れが発生したこと、CSO事業においてMR派遣市場の受注環境の回復の遅れや競争激化により、新規受注案件の獲得が計画を下回る状況で推移していること、ヘルスケア事業におけるSMO業務において上半期に比べ難易度が高い試験の増加による原価率上昇が発生していること等から、通期の売上高及び営業利益は当初計画を下回るものと想定しております。また、第3四半期連結累計期間において契約精算金等の一時的な費用を営業外費用に計上したこと等により、経常利益及び当期純利益につきましても、当初計画を下回るものと想定しております。

これにより、通期業績予想を、売上高51,000百万円（前回予想比4.1%減）、営業利益3,800百万円（同11.6%減）、経常利益3,600百万円（同14.3%減）、当期純利益1,600百万円（同30.4%減）に修正いたします。

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	53,200	4,300	4,200	2,300	126 45
今回修正予想 (B)	51,000	3,800	3,600	1,600	88 89
増減額 (B-A)	△2,200	△500	△600	△700	-
増減率 (%)	△4.1	△11.6	△14.3	△30.4	-
前期実績	50,303	3,918	3,835	2,241	123 25

なお、上記の連結業績予想は本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の連結業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年10月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,400	7,023
受取手形及び売掛金	8,028	7,837
商品及び製品	112	225
仕掛品	3,577	4,070
原材料及び貯蔵品	1,578	1,300
その他	2,799	3,440
貸倒引当金	△10	△10
流動資産合計	24,486	23,885
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,574	4,438
土地	4,622	4,665
その他（純額）	3,057	4,703
有形固定資産合計	12,254	13,807
無形固定資産		
のれん	1,341	1,386
その他	825	864
無形固定資産合計	2,166	2,250
投資その他の資産		
投資有価証券	663	894
敷金及び保証金	1,206	1,349
その他	1,507	1,655
貸倒引当金	△20	△25
投資その他の資産合計	3,357	3,873
固定資産合計	17,779	19,931
資産合計	42,265	43,817

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,536	1,338
短期借入金	5,496	3,265
未払法人税等	924	1,307
賞与引当金	1,764	606
役員賞与引当金	29	—
受注損失引当金	244	321
その他	4,585	7,228
流動負債合計	14,581	14,068
固定負債		
長期借入金	5,460	6,358
退職給付引当金	2,806	3,180
その他	714	765
固定負債合計	8,980	10,304
負債合計	23,561	24,372
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,087	3,087
資本剰余金	6,292	6,292
利益剰余金	9,479	10,209
自己株式	△44	△257
株主資本合計	18,814	19,332
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	93	152
為替換算調整勘定	△319	△90
その他の包括利益累計額合計	△226	61
少数株主持分	114	51
純資産合計	18,703	19,444
負債純資産合計	42,265	43,817



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	37,249	37,835
売上原価	28,635	28,701
売上総利益	8,613	9,133
販売費及び一般管理費	5,639	5,920
営業利益	2,973	3,213
営業外収益		
受取利息	8	7
受取賃貸料	14	10
為替差益	128	104
持分法による投資利益	—	49
受取管理料	25	—
その他	28	35
営業外収益合計	205	207
営業外費用		
支払利息	114	104
出資金等持分損失負担額	37	—
持分法による投資損失	6	—
契約精算金	—	212
その他	27	57
営業外費用合計	186	374
経常利益	2,993	3,045
特別利益		
固定資産売却益	3	3
特別利益合計	3	3
特別損失		
固定資産除却損	8	16
投資有価証券評価損	—	119
関係会社出資金評価損	—	31
事務所移転費用	113	—
その他	3	—
特別損失合計	126	166
税金等調整前四半期純利益	2,870	2,882
法人税、住民税及び事業税	1,515	2,126
法人税等調整額	△547	△578
法人税等合計	968	1,547
少数株主損益調整前四半期純利益	1,901	1,335
少数株主損失(△)	△18	△68
四半期純利益	1,920	1,403

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,901	1,335
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△25	58
為替換算調整勘定	48	241
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	24	300
四半期包括利益	1,926	1,635
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,942	1,691
少数株主に係る四半期包括利益	△16	△55

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年10月1日至平成24年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	CRO事業	CMO事業	CSO事業	ヘルスケア 事業	IPD事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	13,560	12,943	4,512	6,177	54	37,249	—	37,249
セグメント間の内部 売上高又は振替高	136	41	255	12	—	446	△446	—
計	13,697	12,985	4,767	6,190	54	37,695	△446	37,249
セグメント利益又は セグメント損失(△)	2,569	1,429	133	436	△432	4,136	△1,163	2,973

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△1,163百万円には、セグメント間取引消去等△6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,156百万円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年10月1日至平成25年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	CRO事業	CMO事業	CSO事業	ヘルスケア 事業	IPD事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	15,437	11,749	3,523	6,898	225	37,835	—	37,835
セグメント間の内部 売上高又は振替高	123	19	383	21	1	549	△549	—
計	15,561	11,769	3,906	6,920	227	38,384	△549	37,835
セグメント利益又は セグメント損失(△)	3,084	1,161	332	514	△591	4,503	△1,289	3,213

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△1,289百万円には、セグメント間取引消去等12百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,301百万円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 平成25年4月1日付の組織変更に伴い、株式会社シミックBSは、その所属する報告セグメントをヘルスケア事業からCSO事業に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当該変更後の区分方法により作成しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (6) 重要な後発事象

シミックホールディングス株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役会長兼社長：中村 和男、以下「当社」）は、田辺三菱製薬株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長：土屋 裕弘、以下「田辺三菱製薬」）との間で、田辺三菱製薬の完全子会社である田辺三菱製薬工場株式会社（本社：大阪府大阪市、社長：中村 耕治、以下「田辺三菱製薬工場」）足利工場を譲り受け、同工場における現有製造品目の生産を受託することについて基本合意書を締結しました。

## 1. 譲受けの理由

シミックグループは、製薬企業の付加価値向上に貢献する独自の事業モデルであるPVC（Pharmaceutical Value Creator）のもと、CRO（医薬品開発支援）事業、CMO（医薬品製造支援）事業、CSO（医薬品営業支援）事業、ヘルスケア事業、IPD（知的財産開発）事業において、医薬品の開発、製造、営業・マーケティングのバリューチェーンを広範に支援しております。

CMO（医薬品製造支援）事業においては、日本、韓国、米国の3カ国に生産拠点を有し、医療用医薬品、OTC医薬品などを受託生産しております。国内では、錠剤、カプセル剤、散・細粒剤などの固形剤を生産するシミックCMO株式会社（以下「CMO静岡」）と軟膏剤、クリーム剤、ゲル剤などの半固形剤を生産するシミックCMO富山株式会社（以下「CMO富山」）の2拠点を合わせ、国内最大級のCMO（医薬品製造受託機関）として、製剤製造に関する技術水準の高度化及び製剤開発力の強化を図っております。

CMO静岡においては、治験薬製造施設を保有し、治験薬固形製剤及び包装をはじめとする治験薬製造受託サービスを提供しております。さらに、治験薬固形製剤につきましては、製剤開発の初期段階である製剤処方設計支援から工業化検討まで一貫した製造受託サービスの提供、さらに製造販売承認取得後には、CMO（商用製造受託）へのシームレスな移行により、プロダクトライフサイクルを通じたサービスの提供が可能となっております。

また、CMO富山においては、新規顧客からの大型受託案件に対応するため、高濃度アルコール製剤対応製造棟の建設を進めており、完成後の生産能力は従来の2倍以上に高まることとなります。

今般、譲り受ける田辺三菱製薬工場足利工場は、効率的な生産システムを用いて固形剤、注射剤を生産しており、CMO事業の主力剤形である固形剤において、生産能力の向上と、案件に応じた柔軟な生産対応を図ることができます。また、注射剤においても新たな受注機会の創出につながるものと期待しております。

足利工場の現有製造品目の継続的な受託は、CMO事業の安定的な収益確保に資するばかりでなく、緊急事態に備えたバックアップ体制の構築にも有効と考えており、今後は足利工場を加えた国内3生産拠点と海外2生産拠点の連携、製造技術や製剤開発力の一層の強化を促進しつつ、既存顧客からの受注増や新規顧客の開拓に積極的に取り組んでまいります。

## 2. 田辺三菱製薬工場株式会社 足利工場の概要

(1) 所在地	栃木県足利市久保田町588-3
(2) 面積	91,674㎡
(3) 操業開始	1971年
(4) 従業員数	279名 (2013年3月31日現在)
(5) 生産実績	錠剤 (約20億錠)、散・顆粒剤 (約30トン)、注射剤 (約280万本)

## 3. 譲受けの方法

田辺三菱製薬が完全子会社として設立する株式会社 (名称未定。以下、新会社) に対象事業の資産を吸収分割の方法により承継します。その後、当社が新会社の全株式を田辺三菱製薬より譲り受ける予定です。

## 4. 日程

2013年 8月1日	基本合意書締結
2013年 10月	新会社設立 (予定)
2013年 11月	株式譲渡契約書締結 (予定)
2014年 4月1日	株式譲受け、営業開始 (予定)

## 5. 当事会社の概要

## シミックホールディングス株式会社

設立	1985年3月14日
代表者	代表取締役会長兼社長 中村 和男
資本金	3,087百万円
売上高	連結 50,303百万円 (2012年9月期)
従業員数	連結 4,850名 (2013年6月現在)
主な事業内容	事業子会社 (医薬品等の開発・製造・営業支援等) の事業活動の支配・管理

## 田辺三菱製薬株式会社

発足	2007年10月1日
代表者	代表取締役社長 土屋 裕弘
資本金	50,000百万円
売上高	連結 419,179百万円 (2013年3月期)
従業員数	連結 8,835名 (2013年3月期)
主な事業内容	医療用医薬品の研究開発・製造・販売等

6. 今後の見通し

両社は今後、具体的な検討を行い、最終合意に向けて協議を進めてまいります。詳細は明らかになり次第お知らせいたします。本件の2013年9月期 連結売上及び連結損益への影響はありませんが、2014年9月期以降の業績に貢献する見通しです。

## 4. 補足情報

受注の状況  
受注実績

(単位：百万円)

報告セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年6月30日)		前連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
CRO事業	19,927	29,112	19,659	33,176	24,994	28,954
CMO事業	13,670	3,650	11,976	3,406	17,427	3,179
CSO事業	5,314	4,098	2,717	3,197	6,483	4,002
ヘルスケア事業	7,776	13,031	5,865	12,000	10,099	13,034
IPD事業	54	—	225	—	71	—
合計	46,743	49,892	40,444	51,780	59,077	49,171

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。
3. CMO事業の受注残高は確定注文を受けているもののみ計上しております。顧客からは、年間ベースの発注計画等の提示を受けていますが、確定注文とは異なりますので受注残高には含めておりません。
4. 平成25年4月1日付の組織変更に伴い、株式会社シミックBSは、その所属する報告セグメントをヘルスケア事業からCSO事業に変更しております。
- なお、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度の受注高並びに受注残高は、当該変更後の区分方法により作成しております。
5. CRO事業の受注高には、当第3四半期連結会計期間においてシミックPMS株式会社が株式会社日本アルトマークより譲り受けた事業の当第3四半期連結会計期間期首における受注残高1,843百万円が含まれております。